

東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド「GBFund」 第8回助成活動を決定・寄付総額1億円達成

公益社団法人企業メセナ協議会(理事長:福地茂雄 [アサヒグループホールディングス株式会社相談役]、東京都港区芝5-3-2)は、このたび「東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド:GBFund」の第8回助成選考委員会を行い、新たに28件を採択しました(一覧は次頁に掲載)。このうち、祭りや郷土芸能を支援する「百祭復興プロジェクト」(以下、百祭復興)枠での採択は16件。今回の助成総額は999万615円で、2011年3月23日のGBFund開設以来の助成総件数は181件、助成総額は9,128万9,448円となりました。

またこのたび、当初の寄付目標額として定めていた1億円を達成しました。6月5日現在の寄付総額は1億55万6,188円となっており、今後新たな目標を設け、引き続き運営に取り組んでまいります。

震災より2年経過—申請傾向の変化と今後の活動に望むこと

今回の申請活動を概観すると、全体として福島県の案件が増加しました。また、百祭復興プロジェクトへの申請活動がバラエティに富んだ内容となっています。例えば、道具や装束を揃えて祭事に参加するだけでなく、伝統芸能の記録の重要性を感じてアーカイブに取り組む団体が増えてきました。その一方で2年経った今だからこそ、ようやく郷土芸能の復興に着手する団体もあります。時間の経過と共にニーズが多様になっていることを踏まえ、今後も幅広い活動への支援を継続してまいります。

あわせて今回選考委員より挙げたのは、「仕組みづくり」につながる活動を望む声でした。震災直後の緊急時に比べて被災地の課題やニーズが変化している中、芸術・文化の役割も状況に応じ、継続的なものであることが求められます。活動を通して3年後、5年後、さらにその先にどのような変化をもたらすことを望んでいるのか。中長期的な展望を持って活動に取り組むアーティストや団体からの申請を期待しています。

寄付総額1億円達成—より継続的な支援のために

GBFund設立当初に目標に定めていた寄付総額1億円を、2013年5月23日に達成いたしました。寄付者の皆様に感謝申し上げるとともに、より多くの活動への支援ができるようさらなるご協力をお願い申し上げます。

【助成先から寄せられた言葉】

- ・ まだ町はなにも変わっていませんが、また復活する時が来るような思いになった。(岩手県・百祭復興)
- ・ 大震災という、どん底から這い上がる気力は住民の絆から生み出されます。住民の心をひとつにできるものの中に先祖譲りの芸能があり、息づいています。単調で素朴な芸能ではありますが、地域のシンボルとして愛護し、継承していく決意です。(岩手県・百祭復興)
- ・ 指導者は萎えていた気持ちが、一生懸命の子供達から活力をいただき元気づけられました。(岩手県・音楽)
- ・ 体験から学び、これからの豊かさを模索し、今後起こるかもしれない震災への備えとしても生かせるような新たな取り組みも取り入れつつ、微力ではありますが努力していこうと思っています。(福島県・アーカイブ)
- ・ 全てを失った逆境の中でも子供達が逆に強くたくましく育っていく姿を活動を通じて感じることができました。(宮城県・百祭復興)

■GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)

GBFund(ジービーファンド、G:芸術、B:文化、F:復興/ファンド)は、2011年3月23日に企業メセナ協議会が立ち上げた芸術・文化による復興支援ファンド。趣旨に賛同くださった寄付者とともに、設立より5年間、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動を支援する。次回選考は2013年11月を予定。

■百祭復興プロジェクト

百祭復興(ひやくさいふっこう)プロジェクトは、GBFundのなかで郷土芸能や祭りを重点支援する目的で2012年3月に設置された助成枠。

【本件に関するお問合せ先】

公益社団法人企業メセナ協議会 広報担当: 松村 GBFund 担当: 寺岡

〒108-0014 港区芝5-3-2 アイセビル 8階 TEL:03-5439-4520 FAX:03-5439-4521

URL: <http://www.mecenat.or.jp> E-mail: mecenat@mecenat.or.jp

第 8 回助成活動一覧 (※活動内容の詳細については別添書類を参照)	
活動名	実施者・団体 (所在地)
伝統芸能(虎舞)による継承活動	平田青虎会(岩手県)
聞き書きプロジェクト	RQ聞き書きプロジェクト(東京都)
仙台シアターラボ公演「透明な旗」	仙台シアターラボ(宮城県)
堂田薬師大尊祭を存続する会	権仲青年会(福島県)
東日本大震災復興支援上映 「ともにある Cinema with Us 忘れないために」(仮題)	特定非営利活動法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭
大盛岡神輿祭～宮古渾陸友好の絆プロジェクト～	盛岡八幡宮南會(岩手県)
The Day OGATSU ～何気ない日常が、かけがえのないその日になる～	株式会社 TETSU-LAW&Co.(東京都)
被災史料から被災地の新たな歴史像を紡ぎ出す ～救出した古文書の整理プロジェクト～	茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク (茨城史料ネット)(茨城県)
プロジェクト FUKUSHIMA !	特定非営利活動法人プロジェクト FUKUSHIMA(福島県)
東日本大震災備品整備事業	尾崎青友会(岩手県)
美和太鼓	崎浜美和会(宮城県)
奈奈子祭 夏の陣	奈奈子祭実行委員会(岩手県)
祝 せんだい・宮城フィルムコミッション 10 周年 仙台短篇映画祭共同企画 参加型映画制作「仙台の新しい記憶をつくろう」	仙台短篇映画祭実行委員会(宮城県)
只越地区八雲神社・宇賀神社祭典	只越芸能保存会(宮城県)
西館の郷土芸能の継承に向けた住民による 記録冊子の製作活動	西館公民館(岩手県)
田郷鹿踊保存会東日本大震災被災備品整備事業	田郷鹿踊保存会(岩手県)
東日本大震災被災備品整備事業	田の浜大神楽保存会(岩手県)
陸前高田「うごく七夕」山車製作事業	森前組 有志会(岩手県)
飯舘村の伝統芸能継承のための支援活動	いいたてまでいの会(福島県)
川口隆夫ワークショップ in いわき 「からだを使って実写アニメをつくろう」(仮称)	からだ・つくる・あそぶ プロジェクト(福島県)
山の手流・ココロとカラダと人をつなぐプロジェクト	えずこ芸術のまち創造実行委員会(宮城県)
小河原町内会の虎舞復活計画	小河原町内会(岩手県)
大浦霞露ヶ嶽神社陣太鼓保存会	大浦霞露ヶ嶽神社陣太鼓保存会(岩手県)
TohokuCraft 東北羊プロジェクト	TohokuCraft(東京都)
ENJOY ! (Everyone Needs to JOin You) 東北デイズ (仮)	北九州お手軽劇場アイアンシアター運営実行委員会(福岡県)
分かち合うこと、想いやること-未来のための今-(3) 東日本大震災乗プロジェクト Sharing as Caring: Presence for the Future(3)	ハイデルベルガー・クンストファーライン(ドイツ)
年行司太神楽奉納支援	年行司神楽支援実行委員会(東京都)
下高久地区「獅子舞祭り」映像化プロジェクト	TSUMUGU プロジェクト実行委員会(福島県)

公益社団法人企業メセナ協議会 第 8 回 GBFund 選考委員会 概要

- ☐ 開催日 : 2013 年 5 月 27 日(月)
☐ 選考委員 : 片山正夫(セゾン文化財団常務理事)、俵木悟(成城大学文芸学部文化史学科准教授)、船曳建夫(文化人類学者)、
吉本光宏(ニッセイ基礎研究所主席研究員・芸術文化プロジェクト室長)、加藤種男(企業メセナ協議会専務理事)
☐ 採択件数 : 28 件、助成総額:999 万円 615 円

■公益社団法人企業メセナ協議会

企業によるメセナ(芸術文化支援)活動の活性化を目的に1990年2月に発足した公益法人。企業メセナへの意欲を高め、メセナや芸術文化に対する社会の理解を深めるため、1.促進普及、2.情報集配・仲介、3.調査研究・提言、4.協力連携、5.顕彰、6.助成等を行う。日本で唯一のメセナ専門の中間支援組織。会長: 福原義春([株]資生堂名誉会長)、理事長: 福地茂雄(アサヒグループホールディングス[株]相談役)。正会員 130 社・団体、準会員 36 団体(2013 年 5 月現在)。

第 8 回 GBFund(東日本大震災 芸術・文化による復興支援ファンド)助成活動一覧



活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
伝統芸能(虎舞)による継承活動 平田青虎会(岩手県) 通年(イベントや祝い事への参加など) 釜石市を中心とする岩手県内各市町村	1946 年に結成され、釜石市を中心に活動している平田青虎会。尾崎神社や館山神社の氏子としての大祭への参加を始め、結婚式や祝い事への参加、老人ホームや仮設住宅への慰問などを行い、復興支援・郷土芸能の伝承活動を行っている。現在演舞に使用する虎頭が不足しているため、新たに制作し、活動を継続させる。
聞き書きプロジェクト RQ聞き書きプロジェクト(東京都) 2011 年 11 月～2015 年 3 月 南三陸町、気仙沼市、登米市ほか(宮城県)	被災地域の人々の普通の暮らし、生活に根付いた伝統・文化・産業などを聞き書きで一人一人の「自分史」として残し、次世代へ伝える市民ボランティア活動。被災前から自分たちの生活の諸相を保存する習慣がなかったが、県外からの支援者は多くの住民から聞いた昔語りの中に文化の根の深さを感動した。貴重な証言をもとに、地域の魅力と話題を可能な限りウェブにて紹介し、多くの人に伝えることで東北文化の理解に貢献したい。
仙台シアターラボ公演「透明な旗」 仙台シアターラボ(宮城県) 2013 年 6 月 28 日(金)～30 日、7 月 14～15 日 せんだい演劇工房(宮城県)、SUBTERRANEAN(東京都)	震災を機に、解散した地元劇団のメンバーやフリーの俳優の活動の場が減少しており、それゆえに演劇人を志す若者に伝達すべき養成システムの整備が急務となっている。彼らに対し稽古場を開放し、創作ワークショップなどへの参加を促し、地域発のアート集団として創作と修練の場を提供する。また仙台のほかの地域での公演も開催することで横のつながりを強めていく。
堂田薬師大尊祭を存続する会 権仲青年会(福島県) 2013 年 7 月 27～28 日 長寿院 薬師堂(福島県)	いわき市に数多く存在する「じゃんがら念仏踊り」の団体の中でも古くから受け継がれている権仲青年会。一年を通して最も重要な堂田薬師大尊祭は震災による放射能問題の影響を受け、集客が減少し団体の存続が危うくなっている。損傷が激しい祭りの付帯用具を新調することで、歴史のある祭りを盛り上げ、青年会の存続、さらには地域の活性化を目指す。
東日本大震災復興支援上映「ともにある Cinema with Us 忘れないために」(仮題) 特定非営利活動法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭(山形県) 2013 年 10 月 12 日～14 日(予定) 山形美術館展示室(山形県)	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 において、大震災や原発事故、その後の復興や関連する問題を見つめるドキュメンタリー作品を 10～12 作品上映する特別プログラムとして実施。可能な限り和英字幕版付きで上映を行い、カタログも和英両表記で作成し、国内外の観客や報道関係者に被災と復興の現状、被災者の思いを国際的に共有できるよう努める。
大盛岡神輿祭 ～宮古漣陸友好の絆プロジェクト～ 盛岡八幡宮南會(岩手県) 2013 年 6 月 2 日 盛岡市内丸から大通一丁目、二丁目(岩手県)	大盛岡神輿祭りは、周辺市町村から 10 基以上の神輿が一堂に集結し、盛岡市中心部を練り歩くもので、今年で 25 回目を迎える。当会と長年友好関係にある宮古市の神輿団体「漣陸」は津波の被害を多く受けたが、かろうじて神輿は残った。今回、ともにその神輿を担ぎ、祭りに参加してもらうことで元気や活気を取り戻すための後押しにつなげていきたい。また、被災地の人々の勢いを多くの人に見せ、支援の継続へつなげたい。



活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)		活動内容
The Day OGATSU -何気ない日常が、かけがえのないその日になる-	株式会社 TETSU-LAW&Co.(東京都)	津波により多大な被害を受けた石巻市雄勝町の小中学生を対象とした映像ワークショップ。子供たちの目を通して復興の途にある町の今を映像作品として制作していくことで、子供たちの主体性、感性を育む。専門スタッフとともに撮影、編集をしながら、復興する町を子供たち自身の目で捉え、記録に残し、それぞれの作品に対してどう感じたかをシェアしあう。
2013 年 7 月、10 月 予定		
雄勝アカデミー(宮城県)		
被災史料から被災地の新たな歴史像を紡ぎ出す -救出した古文書の整理プロジェクト-		
茨城文化財・歴史資料救済・保全ネットワーク (茨城史料ネット)(茨城県)		全国で最も指定文化財の物的被害件数の多かった茨城県において、関東圏の大学生・大学院生を中心に被災各地のボランティア組織と協力して民間の歴史資料の救出・修復を行う。救出した歴史資料を所蔵者へスムーズに返還するとともに、地域の歴史に根差した復興に資する被災史料の社会的意義を伝えることができる環境を整えることを目指す。
2013 年 7 月 1 日～2014 年 3 月 31 日		
茨城大学人文学部(茨城県)		
プロジェクト FUKUSHIMA ! 特定非営利活動法人 プロジェクト FUKUSHIMA(福島県)		
2013 年 6 月～2014 年 3 月		音楽などを通して福島県の真の姿を県外に発信し、県内外の多くの人々が共同の体験をすることにより、数々の誤解を解き、福島の復興を目指すプロジェクト FUKUSHIMA。3 年目の今年のメインとなるのは、老若男女が参加しやすい「盆踊り」をテーマとした夏のフェスティバル。様々なアーティスト、県外からの参加者や地元住民が一体となってフェスをつくりあげる。
福島市街なか広場(福島県)		
東日本大震災備品整備事業 尾崎青友会(岩手県)		
2013 年 6 月		
尾崎神社祭典、港まつり、虎舞フェスティバル (岩手県)		釜石市無形民俗文化財に指定されている尾崎青友会の活動拠点釜石市浜町は、津波により会員や会員の家族を含む多くの犠牲者が出た。現在も住民の多くが市内各所の仮設住宅に暮らしており、かつての地域のつながりが失われつつある。秋の祭りまでに山車の塗装を完成させ、被災した人々の活力を取り戻し、コミュニティ再建の一助となるよう取り組む。
美和太鼓 崎浜美和会(宮城県)		
2014 年 5 月、8 月 4 日		
気仙沼市長命寺境内(宮城県)		
奈奈子祭 夏の陣 奈奈子祭実行委員会(岩手県)		震災により壊滅状態になった釜石市鶴住居地区にて、被災した芸能団体の発表の場をつくりたいとの思いから企画され、発声者の名前をとって今年 2 月に一般民家で開催された「奈奈子祭」。2 回目はより多くの被災者が鑑賞できるよう、旅館の屋外ステージにて開催する。神楽や虎舞、太鼓など様々な郷土芸能を楽しみながら地元住民同士の絆を再確認する機会となることを目指す。
2013 年 7 月 27 日		
根浜海岸 宝来館(岩手県)		

活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
祝 せんだい・宮城フィルムコミッション 10 周年 仙台短篇映画祭共同企画 参加型映画制作「仙台の新しい記憶をつくろう」 仙台短篇映画祭実行委員会(宮城県) 2013 年 7～8 月(撮影)、9 月 21 日～23 日(公開) せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア (宮城県)	9 月に行われる仙台短編映画祭で上映する短編作品を作成する。町の様子が日々変化していく現状をふまえ、震災後改めて気付いた町の美しさや人々のその後をフィクションとして取り組むとともに、「残しておくべき景色」を撮影場所を選び、今の町の様子を残すことを目的とする。作品が作られる様子を一般公開し、市民の作品への参加機会を積極的ににつくることにより町中に活気を与える。
只越地区八雲神社・宇賀神社祭典 只越芸能保存会(宮城県) 2014 年 5 月 3 日 気仙沼市唐桑町只越地区内八雲神社、 宇賀神社別当宅前及び地区内の広場(宮城県)	只越芸能保存会が管理をする七福神舞は子どもを中心とした奉納演芸であり、180 年ほど前から伝承されてきた。しかし震災により当地区は壊滅的な被害を受けたため、震災後は祭典が未だ開催されていない。練習に集まらない大人の指導者の発声にかわり、太鼓・笛の囃子や歌を録音したテープを流すワイヤレスアンプを利用して、来年こそは祭りを復活させるべく練習に励みたい。
西館の郷土芸能の継承に向けた住民による 記録冊子の製作活動 西館公民館(岩手県) 2013 年 5 月下旬～10 月 大船渡市末崎町西館(岩手県)	集落の 3 分の 2 が流失し、高台移転が決まっている西館において、伝統芸能の継承が課題となっている。そこで伝統芸能に関する記録冊子をつくり、継承への思いを共有することを目指す。昨年行われた祭りの記録を集めて掲載するほか、高齢者に昔の祭りの様子を聞き取りする方法で情報を集めていく。完成した冊子は全戸に配布し、多くの人に伝えていきたい。
田郷鹿踊保存会 東日本大震災被災備品整備事業 田郷鹿踊保存会(岩手県) 2013 年 6 月～ 鶴住居神社祭典、白浜祭ほか(岩手県)	約 320 年の歴史をもつ田郷鹿踊は震災により、一部の太鼓と鹿頭を除く多くの道具や装束が被災した。現在では多くの仮設住宅が立ち並んだことで人口も以前の数倍になり、地域住民同士の交流や地域活性化が求められている。半纏や鹿頭踊幕を再整備し、田郷地区唯一の伝統芸能を次世代へ継承しながら、地域の復興に貢献したい。
東日本大震災被災備品整備事業 田の浜大神楽保存会(岩手県) 2013 年 5 月～ 山田町船越 荒神社境内、 田の浜地区 各御旅所、各家(岩手県)	戦前、当時の有志が大槌町の太神楽団体に教えを受け、田の浜地区唯一の芸能として伝承されている田の浜太神楽は、震災により獅子頭一頭以外全てを流出した。しかし幸いにも次世代の後継者が多数いるため、基本的な動作などの練習を行っている。地域の伝統を絶やさぬよう最低限の道具を揃えて活動を継続したい。
陸前高田「うごく七夕」山車製作事業 森前組 有志会(岩手県) 2013 年 5 月～8 月 陸前高田市高田町森の前公民館、 仮設の集会場(岩手県)	陸前高田市の「うごく七夕」は、祖霊を迎える伝統行事として例年 8 月 7 日に行われ、震災の年も翌年も震災被害者の霊に祈るために開催された。しかし津波によりシンボリックな財産であった山車が流失してしまった森の前地区は参加をこの 2 年間見送っている。今年こそは山車を再建させ、拡散した住民が年一度集まる機会をもち、それをきっかけとしてコミュニティの再生を図る。



活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)		活動内容
飯舘村の伝統芸能継承のための支援活動	いいたてまでの会(福島県)	10月に行われる「いいたて村文化祭」に出演する伝統芸能団体を対象に、当日までの練習の様子と本番当日の取材を行う。その内容を紙媒体と映像にまとめ、飯舘村の伝統芸能を県内外の人に広く知ってもらうことを目指す。生の声に触れ、現場の空気を共有することで制作される冊子と映像は独自の内容となることが期待できる。
2013年7月1日～2014年1月31日		
各伝統芸能団体練習場所、飯舘村仮設住宅、 いいたて村文化祭会場(福島県)		
川口隆夫ワークショップ in いわき 「からだを使って実写アニメをつくろう」(仮称)		放射能問題により福島の子どもたちは外で遊ぶことが憚られ、室内遊具施設は混み合い、遊び場が少なくなっている。子どもたちが安心して遊べる環境を提供すべく、コンテンポラリーダンサーによるワークショップを企画する。実写アニメの映像作品制作を通して、子どもたちの自ら遊ぶ力を引き出し、希望のある新しい世界に遭遇させる機会としたい。
からだ・つくる・あそぶ プロジェクト(福島県)		
2013年8月10～11日		
高久公民館(福島県)		
山の手流・ココロとカラダと人をつなぐ プロジェクト		震災前より宮城県内で活動してきたアーティストによる演劇ワークショップ。子ども、障がい者、認知症の高齢者などそれぞれの参加者に最も適したメニューになるよう各施設の担当者と打ち合わせをし、プログラムをつくっていく。全プログラムを共通のテーマで展開し、各回で創られた劇やダンスなどの作品をウェブ上にて共有し、地域内外に発信する。
えずこ芸術のまち創造実行委員会(宮城県)		
2013年12月上旬～2014年3月中旬		
教育機関(小学校、幼稚園)、福祉施設、病院など (宮城県)		
小河原町内会の虎舞復活計画		地域住民間と世代間の交流をはかってきた小河原町の虎舞。お正月には各家を回って悪魔祓いを行い、晴れの日である4年に一度の五年祭に参加してきた。震災によりかなりの衣装道具類を失った上、多数の住民が拡散し、当初は解散の話も出るほど絶望的になったが、少しずつ戻ってきた住民や次世代のためにも、立て直しを決意し、来年のお正月には3年ぶりの復帰を目指す。
小河原町内会(岩手県)		
2014年1月1日、2016年10月		
大船渡市末崎町小河原地区(岩手県)		
大浦霞露ヶ嶽神社陣太鼓保存会		本年は3年に一度の「霞露ヶ嶽神社例大祭」の年である。地区住民は霞露ヶ嶽を「おかろさま」と呼んで厚く信仰し、祭りを執り行ってきた。大浦霞露ヶ嶽神社陣太鼓保存会は、その祭りにおいて神輿行列の先頭に立つ陣太鼓を奉納している。震災により衣装等が流失し、太鼓は半壊状態で発見されたため、それらを修復して例大祭を行うことで、地域の結束力を深めていきたい。
大浦霞露ヶ嶽神社陣太鼓保存会(岩手県)		
2013年9月		
下閉伊郡山田町大浦地区(岩手県)		
TohokuCraft 東北羊プロジェクト		被災者が自身の創造活動を通じて生きる活力をつくりだすことを目的に、編み物や布を使って手作りのワークショップ活動を2011年5月から行ってきた。これまでの活動を通し、参加者が地道に復興を進めていく姿勢にふれ、今後は素材の毛糸作りから現地で行いながら、より一層地元の人が関わっていく雇用の創出、コミュニティの活性化を目標に活動を継続していく。
TohokuCraft(東京都)		
2013年5月～2014年3月		
石巻市内仮設住宅集会所、 日和アートセンター(宮城県)		



活動名／実施者・団体名(所在地) 実施時期／実施場所(都道府県)	活動内容
ENJOY! (Everyone Needs to JOin You) 東北デイズ (仮)	震災復興に関心が高く精力的に活動しているアーティストを招致し、ダンスや即興芝居などの創作活動と発表の場を設けることで、北九州に避難している被災者の精神的支援を行う。またアーティスト、北九州在住の被災者、地元住民との交流の場を設け、地域共生活活性化を促すとともに、社会の中でのアーティストの活動への注目を喚起し、広く周知させることを目標とする。
北九州お手軽劇場アイアンシアター 運営実行委員会(福岡県)	
2013 年 9 月 14 ～20 日	
枝光本町商店街アイアンシアター(福岡県)	
分かち合うこと、想いやること-未来のための今-(3)東日本大震災栗プロジェクト Sharing as Caring: Presence for the Future(3) ハイデルベルガー・クンストファーライン(ドイツ)	被災者を応援するために開催される5ヵ年計画の展覧会の3年目。今回はイケムラレイコ氏による福島をテーマにした描画と写真の作品をポストカードにし、ドイツのハイデルベルグ市内で一般市民に配布、PR する。ポストカードは公共図書館などを通じて約2万枚が無料配布され、ワークショップなどを通じてメッセージを記入してもらい、日本への投函も促す。2カ国の個人同士のコミュニケーションを具体的な形でつなぎ、新たな交流、サポートを築く場となる可能性に期待する。
2014 年 3 月 15 日～5 月 23 日	
ハイデルベルガー・クンストファーライン、ハイデルベルグ市内公共図書館、ハイデルベルグ大学図書館(ドイツ)	
年行司太神楽奉納支援 年行司神楽支援実行委員会(東京都)	
2012 年 6 月～2013 年 11 月	岩手県釜石市只越町に拠点を置く年行司太神楽は、地元釜石の祭典における太神楽の奉納や悪魔祓いを行う一方、岩手県で唯一伊勢神宮で20年に一度行われる式年遷宮に赴き、奉納を行ってきた歴史を持つ。本年11月の奉納を実現させることにより、これまでの風習を守り継承し、未来に伝承するとともに、被災した東北地方の鎮魂と地域住民の精神的支援につなげられることを目的とする。
伊勢神宮(三重県)、尾崎神社(岩手県)	
下高久地区「獅子舞祭礼」映像化プロジェクト TSUMUGU プロジェクト実行委員会(福島県)	江戸時代から下高地区に伝わる獅子舞祭礼は、震災以降放射能の影響で簡素化され、祭りの担い手が減少し、継承困難な状況にある。昨年に引き続き、祭りの風景や祭りに携わる人々の想いを現地の子ども達とともに取材し、映像による記録をしていくことで、土地の記憶、アイデンティティを次世代へつないでいきたい。
2013 年 9 月 1 日～15 日	
いわき市平下高久地区(福島県)	



【RQ 聞き書きプロジェクト】



【大浦霞露ヶ獄陣太鼓保存会】